

【上級 vol.10】3つの音の順番を入れ替えてみる

どうも、大沼です。

今回は、前回学んだトライアドの、『構成音の順番を入れ替える』と言うことをやって行きたいと思います。

これまでの譜例では、C(ド)音をルートにしてトライアドを見ているので、

root、M3rd、P5th から成るメジャートライアドなら、C、E、G(ド、ミ、ソ)

root、m3rd、P5th から成るマイナートライアドなら、C、E \flat 、G(ド、ミ \flat 、ソ)

という順番に、構成音が積み重なっていますね。

実際、前回譜例に載せたコードフォームは、
全て一番低い音が root の C(ド)音になっていたはずですが。

それを踏まえた上で、今回覚えるコードフォームは、
「3rd の音を一番下に配置したもの」です。

そしてそのまま root を一番上に持ってきて、

メジャートライアドならばミ、ソ、ド、(M3rd、P5th、root)の順番。

マイナートライアドならば、ミ \flat 、ソ、ド(m3rd、P5th、root)の順番で音が並びます。

もしかしたら、ここまでの解説で気付いたかも知れませんが、
この理屈でいくと、トライアドのフォームはもう1種類作れますね。

そうです。

『5th、root、3rd の順番で並ぶフォーム』です。

この様に、トライアドのフォーム(コード・ヴォイシング)には、3つの種類があります。

ちょっと覚えることが多くて大変かも知れませんが、指板上のフォームを紹介し終わったら
実例となるフレーズで学んでいきますので、日々の練習に取り入れるなどして
少しずつ覚えていってください。

今はトライアドを覚えるのに集中したいので、ペントニックの実例を出していませんが、
フォームをすべて紹介したら、ペンタなどのプレイもまたやっていきます。

新しいことを“覚えてね”とだけ言われて、とりあえず暗記だけでも中々身につかないんですが、
実例をやっていく内に、使い方がわかって自然と身につけていきます。

今はその前の準備段階ですね。

世の中のギターフレーズの意味を、きちんと理解出来る様になる為に頑張ってください。

では今回の、3rd、5th、root の順番で、低い音から並んでいる
トライアドのフォームに入っていきます。

前回行った練習は、root、3rd、5th の順番で音が並んでいました。

※前回の譜例(C メジャートライアド、全て下からド⇒ミ⇒ソの順)

1	2	3	4	5	6
T					
A					
B					
5	0	12	8	3	15
7	2	14	9	5	17
8	3	15	10	5	17
人薬小	中薬	人薬小	人中薬	人小薬	人小薬

今回はその順番を入れ替えて、3rd、5th、root の順番でのトライアドです。

この、構成音の順番(音の積み重ね方)を入れ替えたものには名前があり、

前回の root、3rd、5th の順のトライアドを“基本形”として、
今回の 3rd、5th、root の順のトライアドを“第一転回形”と呼びます。

“第一展開形”とか言われると、なんだかややこしく感じるかもしれませんが、単純に、基本形を転回させたもの(の1つ目)と言う事です。

root、M3rd、P5th がドミンだったら、それを、M3rd、P5th、root のミソドの並びに転回させた
という、それだけのお話です。

この時、M3rd であるミが一番低い音になりますが、あくまで、元のコードの、本来の root 音は C(ド)音のままです。

C(ド)音が root の、C メジャートライアドの基本形を転回させて、ミソドの並びの、C メジャートライアドの第一転回形に変えた、
と言う事を理解してくださいね。

ミ(3rd)が root のコードに、コードそのものを変えたワケではないのです。

この辺り、ちょっと解説が難しいのですが、基本的な考え方としては、例えば、

「バンドアンサンブルの中で「ギターが普通に C コードを弾いている所に、ベースが C コードの構成音の中の、M3rd である E 音を弾いている」

と言うような、そんな状態です。

さて、前置きが長くなりましたが、実際のコードフォームを見てみましょうか。

今回も引き続き、root が C(ド)音の、C のトライアド(メジャー、マイナー)でやっていきます。

譜例 1、C メジャートライアド第一転回形(M3rd、P5th、root)

1 2 3 4

mf

T 5 17 1 13 8 (20)

A 10 17 0 12 8 (20)

B 12 7 19 14 9 (21)

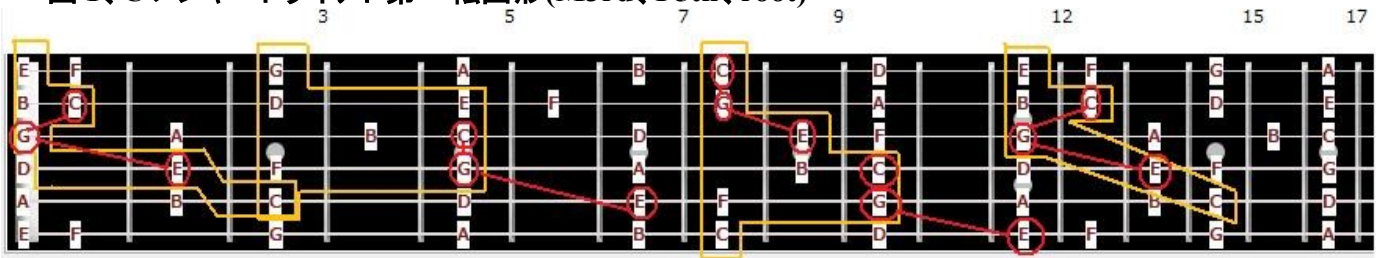
人 人 人 人 人 人

人 人 人 開放 中 人 人

人 人 人 中 人 人

前回と同じく、指板上でC(メジャー)のコードフォームと照らし合わせてみます。

図 1、C メジャートライアド第一転回形(M3rd、P5th、root)



さらに以前やった、こちらの譜例とも照らし合わせてみましょう。

ちゃんと、それぞれの root、M3rd、P5th を含み、第一転回形として、M3rd、P5th、root の順番で、メジャートライアドのコードが構成されています。

※譜例、root、M3rd、P5th の把握

同じように、Cマイナートライアドの第一転回形も練習します。

譜例 2、Cマイナートライアド第一転回形(m3rd、P5th、root)

Figure 2 shows a musical score for the C minor triad first inversion in 4/4 time. The score includes a treble clef, a key signature of one sharp (F#), and a dynamic marking of *mf*. The score consists of four measures. Below the staff is a guitar TAB with fret numbers for strings T, A, and B. Underneath the TAB are fingerings: '人' (finger) and '中' (middle finger).

図 2、Cマイナートライアド第一転回形(m3rd、P5th、root)

Figure 2 shows a fretboard diagram illustrating the notes of the C minor triad first inversion across frets 3, 5, 7, 9, 12, 15, and 17. The notes are arranged in a grid with fret numbers at the top and string numbers on the left. Some notes are circled in red, and some are circled in yellow.

これらのメジャー、マイナー両トライアドを練習する時の重要なポイントは、

- ・コードの音(響き)をよく聴くこと(M3rd か m3rd かで、大きく「明るい⇔暗い」が変わる事)
- ・自分が押さえている指の、どれが何の音かを理解していること(root、3rd、5th のどれなのか)

この2つです。

耳と頭(と視覚)の両方で理解する、と言った感じですね。

後、これらのトライアドのフォーム(コード・ヴォイシング)が、今まで弾いてきた曲で使われていないか？自分の知っているコードに入っていないか？そういった事とも照らし合わせていくと、スムーズに覚えられるかと思います。

それでは、今回は以上になります。

次回やることの話の話を先に少ししてしまうと、

- ・メジャー、マイナー両トライアドの第二転回形(5th、root、3rd)のコードフォーム
- ・これまで覚えたトライアドの形3種(基本形、第一転回形、第二転回形)を繋げるエクササイズ

と、この辺りになります。

ここまでの話を理解していれば、第二転回形がどういうフォームになるのかは、きっと予想できる筈です。

もし余裕があったら予習しておいてくださいね。

後、他にもエクササイズとして、トニックを変えて、C音ルート以外のトライアドも弾いてみましょう。

その後は、実際のギターフレーズでトライアド(とペンタ)の具体的な使い方を学んでいきます。

ありがとうございました。

大沼